



2025年度

給付型助成金志望者募集要項

個人対象

公益財団法人
オービック野田財団
OBInoda Foundation



Player's Voice

怪我のリスクを減らし ベストパフォーマンスを追求できています

幼

稚園の年長からフットボールを始め、これまでずっとその魅力に惹かれ続けてきました。フットボールを通じて、多くの方々に支えられてきたので、プレーで恩返しをしたいと思います。

私が思い切りフットボールに打ち込めているのは、オービック野田財団のご支援のおかげです。兄も姉も大学に通っていたので、親の学費負担を財団からの援助で軽減できたことはとてもありがたく思っています。昨年怪我をした際も、親から不自由なく治療費を出してもらうことができたのは日頃から支援を頂いているからこそです。

フットボールの用具はスパイクやグローブ、その他消耗品も多く、金銭的な負担が大きいです。古くなったり傷んでしまった用具を無理して使用し続けると怪我のリスクが高くなってしまいます。今は財団のサポートのおかげで、常にベストの状態の用品を使用して、ベストパフォーマンスを追及することに集中できています。

学業の面では、人間福祉学部社会起業学科で社会に新しいビジネスを提案するスキルを学んでいます。2年生の前期を終えて、既に卒業に必要な単位の半分の取得することができました。中学や高校の授業とは違い、自分の興味に合わせて学べる点が面白いです。

将来の夢は、大好きなフットボールを社会人でも続けることです。具体的な計画はまだ決まっていますが、プレーができる限りはフットボールをしていきたいという強い気持ちがあります。昨年は選手人生で初めての大きな怪我をして、とても悔しい思いをしました。立命館大学戦、関西大学戦のピックゲームを経験できていない分、他の選手とも差が生まれていると思います。今シーズンはプレーができることを当たり前だと思わず、目の前の1プレー1プレーに集中することで、良い結果を残したいです。

小段 天響 2023年度より受給

関西学院大学2年。幼稚園年長からOSAKAマーヴィーズにてフットボールを始める。大阪産業大学附属高校ではWRとSFを兼任。3年時には主将として11年ぶりのクリスマスボウル出場へと導いた。関西学院大学ではWRとして1年時から主力出場を果たしている。



Player's Voice

フットボールに特化された助成金 プレーで恩返しをしたいと思います

高

校3年生の時にオービック野田財団の存在を知り、こんなにフットボールに特化した支援があるんだと驚きました。フットボールはお金のかかる競技です。親に負担をかけたくないという思いがあったので、少しでも自分でできることはやってみようと思いを決めました。部費や合宿、関西遠征費、ユニフォーム代、それにスパイクやグローブなどの消耗品も含めると、助成金がなければフットボールを続けることは難しかったと思います。

RBはポジション柄、スパイクのポイントがすぐに折れてしまいます。高校生の頃はポイントが折れたり、滑りやすくなったりしたスパイクを無理に使い続けることもありましたが、今ではその心配もありません。試合でミスをした時に道具を言い訳にはしたくないので、ベストな状態で試合に臨めることがとてもありがたいです。フットボールに必要なものだけでなく、大学の教科書も助成金を使用させていただき、フットボールと学業の両方に集中できています。

毎月、財団には助成金の使用用途を報告しています。この報告を通じて、自分がどれだけお金を使って、フットボールを継続できているか再認識できます。また、フットボールと学業の成果を言葉に記すことで、日頃の振り返りができるいい機会です。報告書の提出は義務ですが、私にとっては自分自身と向き合う機会であり、せっかくの機会を生かして、自分に足りない部分の改善に繋がりたいです。

今シーズンの目標は、ラッシング1000ヤードを目指します。この目標を達成すれば、チームも全勝して関東1位になれるはずですし、個人としてもオール関東のリーディングラッシャーになれる可能性が広がります。毎試合150ヤードを目安に、チームのため、自分の成長のために頑張ります。特に、母が週末の試合を楽しみにしてくれているので、活躍して少しでも恩返しをしたいと思います。

安藤慶太郎 2022年度より受給

早稲田大学3年。早稲田大学高等学院からフットボールを始める。高校3年時はRBとSF、中学までのサッカー経験を生かしてKとPも務めた。早稲田大学では1年時からSFとして活躍し、2年生からRBに転向。2023年は19回311ヤード4TDの活躍を見せた。



Player's Voice

自分にとってベストな選択をできる環境がパフォーマンスの向上に繋がっています

オ

ービック野田財団の助成金をいただいているおかげで、フットボールに集中できる環境で日々成長することができています。毎日の練習や長い通学時間を考えると、アルバイトをする余裕はなく、体づくりに必要なプロテインやリカバリー用品、部活に通うための交通費をまかなうのは大きな負担でした。助成金をいただくまでは、効能面だけでなく金額面も考慮してプロテインを購入していましたが、現在は自分にとって最適なものを気兼ねなく選ぶことができます。おかげで昨年よりも6キロの増量に成功し、パフォーマンスの向上に繋がりました。

学業の面でも、勉強はあまり得意ではないですが、助成金をいただいていることが良い緊張感となっています。オービック野田財団の方との面接で「スポーツだけでなく、学業でも頑張ります」と宣言したので、好き嫌いは関係なく努力し続けたいです。

毎月、オービック野田財団へはレポートを提出しますが、1ヶ月の自分の取り組みをしっかり振り返えることのできるとても良い機会です。支援いただいている立場なので、他の選手から憧れられる選手にならないといけない、と再認識する時間でもあります。

ラストイヤーの今年はチームとして甲子園ボウルに出場し、日本一になることが目標です。個人的な目標はフィールドで着実に結果を残し、甲子園ボウルで活躍します。

学生フットボールを終えた後も成長を続け、社会人になっても一線級で活躍し続ける選手でありたいです。フットボール界で常に注目される存在であり続け、世界で戦う場面があれば、日本代表としてプレーしたいという夢を持っています。そのために、毎日の練習で海外の選手と戦うイメージを持ち、日々努力します。

大野 光貴 2024年度受給

立命館大学4年。立命館守山中学校でフットボールを始める。高校ではU18インターナショナルボウルに2回出場、大学3年時にはドリームジャパンボウル全日本選抜に選出された。今季はエースWRとして攻撃を率い、9年ぶりの甲子園ボウル優勝を目指す。



Player's Voice

助成金をいただいていることがフットボールと学業のモチベーションになっています

助

成金を受給できると決まった時には、「本当にいいんですか?」と驚きました。自分には受からないと思っていたので、身が引き締まる思いでした。オービック野田財団の助成金をいただいていることが、選手としてのモチベーションになっています。

毎月、助成金の使用用途を報告するレポートを書きます。この時間は自分の一ヶ月間の取り組みを振り返ったり、次の月に向けて新たな目標や課題を考えたりする良い機会です。今年は攻撃リーダーを務めているので、チームが変わってきた部分や課題となっていることを考える時間は刺激となっています。

助成金は、寮費や昨年大怪我をしたので、リハビリテーション施設の費用に充てています。もし助成金がなければ、怪我の治療やリハビリをこんなに長く続けられなかったかもしれません。

学業の面では、法学部政治学科に在籍しています。時には授業を休みたくなる日もありますが、助成金をいただいているということが、行きたくない心に打ち勝つ要因となっているので、単位も順調に取得できています。

今季は怪我から復帰のシーズンということもあり、今は将来のことよりもまずは中央大学で結果を残すことだけを考えています。1年生の時にドリームボウルに出場できず、高校時代はコロナウイルスの影響でU19世界選手権大会が開催されなかったこともあり、日本代表に選ばれたいという夢があります。

今年の目標はTOP8のリーディングレシーバー、オール関東、日本代表といった取れる限りすべてのタイトルを手にする事です。昨年は怪我のためにサイドラインからチームを見守ることしかできず、悔しい思いをしました。OBや保護者の方々とお会いする際に「松岡頼もむぞ」と言っていたいただけるので、フィールドでその期待に応えたいです。

松岡 大聖 2022年度より受給

中央大学3年。横浜栄高校でフットボールを始め、WR/SFとして関東大会出場に貢献。中央大学では1年時の2022年にエースWRとして奮闘し、ルーキーながらレシーブ部門で関東TOP8首位、オール関東24選出の活躍を見せた。

募集要項

給付対象

日本国内の大学に在学し、スポーツを積極的に行う学生で、スポーツを通じて明るく豊かで活力に満ちた社会の実現に寄与し、他の範となることができる者。

対象スポーツ種目

アメリカンフットボール

応募資格

給付期間(2025年4月1日～2026年3月31日)において、以下の該当項目を満たしていること。

1. 上記給付期間において大学生であること
2. 専攻するスポーツ種目において、自他ともに認める力量を有していること
3. チームスポーツにおいては、大学または社会人等のチーム(部)に所属している競技者であること
4. 申請時に満25歳未満であること
5. 留年をしていないこと

給付金額

給付期間は給付取消に抵触しない限り大学卒業までとし、給付金額は次のとおりとする。年間72万円を前期と後期の2回に分けて給付する。(返済義務がない給付型)

◎前期分給付 36万円(5月末頃予定)

◎後期分給付 36万円(11月末頃予定)

上記応募資格を喪失した場合、また当財団の助成金の廃止要件に該当した場合、助成金の廃止および返還請求を行うことがある。

採用人数

15名程度

申請手続

公益財団法人オービック野田財団サイト内、エントリーフォームからプレエントリーを行うこと。プレエントリー完了後、下記の書類を申請期限までに事務局宛に送付すること。なお、申請書類は返却しない。

1. 助成金給付願書(個人)(指定書式)
2. 在学学校長等の推薦書(指定書式)
3. 指導教授、指導者または協会等からの推薦書(指定書式)
4. 成績証明書(発行できる最新のもの)
5. 住民票(家族全員でマイナンバー無し、3ヶ月以内のもの)
6. (一次選考合格者のみ)扶養者の所得証明書

申請期間と給付決定予定

◎申請期間 2024年11月1日～2025年1月31日(当日消印有効)

◎給付決定 2025年3月末日予定

なお、給付決定後、入学または進学ができなかった場合については、給付を取り消す。

選考と結果通知

1. 一次および二次選考は選考委員会で行い、最終選考は3月下旬予定の理事会にて決定する
2. 一次選考は書類審査を行い、可否については通過者のみ連絡する
3. 二次選考は面接を行う
4. 最終選考は二次選考結果をもとに理事会で行い、結果については全員に連絡する
5. 給付が決定した場合は、4月時点の在学証明書および財団指定の振込依頼書を事務局宛に送付すること
6. 給付後、毎月(5日締切にて)活動報告書兼使途報告書を提出すること

選考基準

1. 心身ともに健康である者
2. 学業に意欲があり、確実に修了できる見込みがあると認められる者
3. 特定のスポーツにおいて、特にすぐれた資質、能力があると認められる者
4. 経済的な支援を必要とする者
5. 定期的に連絡が行える者(月次報告提出および電話・メールにて連絡が取れること)

その他

1. 給付が決定した場合、当財団関連の印刷物・ホームページで氏名等を公表する場合がある
2. 在学からの問い合わせには、選考内容以外について回答を行う。また当財団から在学へ問い合わせを行うことがある
3. 申請書類上の個人情報については、当助成金対象者の選考以外に使われることはない
4. 助成対象者が学業を修了した後の進路に制約は設けない
5. 財団主体の助成対象者交流会を年1回程度開催する
6. 給付後、当財団の規定に則して、助成金の停止もしくは廃止をする場合がある

願書記入・作成上の注意

1. 助成金給付願書(個人)は必ず本人が直筆にて記入すること(保護者または身元保証人欄を除く)
※諸事情により日本語での記入に問題がある場合には、事務局へ相談のこと
2. 願書および推薦書の両面印刷は不可
3. 給付時の金融機関口座は、必ず本人の口座を指定のこと(本人名義以外の口座への入金が行わない)

詳しくは、当財団のホームページにてご確認ください。

財団概要

◎設立 2017年1月11日

◎公益法人認定 2018年3月8日

◎主務官庁 内閣府

◎代表者 理事長 野田順弘

◎目的および事業

スポーツ・学術・文化・医療・社会福祉・国際交流などの各分野において、経済的支援を行うことにより、わが国の発展に資することを目的とします。この目的を達成するために次の事業を行います。

1. スポーツ・学術・文化・医療・社会福祉・国際交流などの各分野において活動する学生及び団体に対する経済的支援

2. スポーツ・学術・文化・医療・社会福祉・国際交流などの各分野における研究事業に対する経済的支援

3. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

お問い合わせ・願書送付先

公益財団法人
オービック野田財団 事務局

〒104-8328

東京都中央区京橋2-4-15 オービックビル内

TEL : 03-3548-0012
FAX : 03-3548-0013

(※電話受付時間：平日11時～16時／土日祝日休み)

E-mail : zaidan@obic.co.jp

スマートフォンからのアクセスはこちら



Web : <https://obicnoda-zaidan.jp/>